

# 第93回 簿記実務検定第1級試験問題

原価計算

(制限時間 1 時間 30 分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

売掛金	製品	A組製品	B組製品
素材	買入部品	建物減価償却累計額	売上
売上原価	外注加工賃	特許権使用料	棚卸減耗損費 (棚卸減耗)
減価償却費	製造	A組製造	B組製造
組間接費	材料消費価格差異	本社	工場

- a. 単純総合原価計算を採用している富山製作所では、月末に特許権使用料の月割額を計上した。ただし、/年分の特許権使用料は ¥4,800,000 である。
- b. 個別原価計算を採用している三重製作所は、次の製品を発注元に発送した。よって、売上高および売上原価を計上した。

	A製品 (製造指図書#31)	B製品 (製造指図書#32)
売上高(掛け)	¥7,500,000	¥410,000
製造原価	¥4,500,000	¥246,000

- c. 新潟製作所の/月末における素材の实地棚卸数量は380kgであった。よって、次の素材に関する/月の資料にもとづいて、素材勘定の残高を修正した。ただし、消費数量は2,100kgである。なお、消費単価の計算は総平均法によっている。

/月 /日	前月繰越	500kg	/kgにつき	¥1,210
5日	仕入	800 "	"	" 1,230
18日	仕入	1,200 "	"	" 1,280

- d. 組別総合原価計算を採用している石川工業株式会社は、組間接費 ¥860,000 を機械運転時間を基準にA組とB組に配賦した。なお、当月の機械運転時間はA組3,250時間 B組1,750時間であった。
- e. 工場会計が独立している福井産業株式会社の本社は、決算にさいし、建物の減価償却費 ¥2,300,000 を計上した。ただし、このうち ¥1,260,000 は工場の建物に対するものであり、建物減価償却累計額勘定は、本社のみ に設けてある。(本社の仕訳)
- f. 北海道工業株式会社は、会計期末にあたり、材料消費価格差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、材料消費価格差異勘定の前月繰越高は、¥4,000 (貸方) であり、当月の素材の実際消費高は予定消費高より ¥9,000 多く、この額は材料消費価格差異勘定に振り替えられている。

**2**

滋賀産業株式会社は工程別総合原価計算を採用し、A製品を製造している。下記の資料によって、

- (1) 工程別総合原価計算表を完成しなさい。
- (2) 第2工程の月末仕掛品原価に含まれる前工程費を答えなさい。
- (3) 第1工程半製品勘定を完成しなさい。  
 ただし、
  - i 第1工程の完成品原価は、すべて第1工程半製品勘定に振り替えている。
  - ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、第1工程の完成品は第2工程の始点で投入されるものとする。
  - iii 加工費は第1工程・第2工程ともに製造の進行に応じて消費されるものとする。
  - iv 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 生産データ

	第1工程	第2工程
月初仕掛品	400個 (加工進捗度50%)	600個 (加工進捗度50%)
当月投入	2,100個	1,800個
合計	2,500個	2,400個
月末仕掛品	500個 (加工進捗度40%)	500個 (加工進捗度50%)
完成品	2,000個	1,900個

b. 当月製造費用

① 工程個別費および補助部門個別費

	第1工程	第2工程	補助部門
素材費	¥5,250,000	—	—
労務費	¥2,880,000	¥4,320,000	¥869,000
経費	¥453,000	¥718,000	¥76,000

② 部門共通費を次のとおり配賦する。

第1工程 ¥551,000      第2工程 ¥890,000      補助部門 ¥95,000

③ 補助部門費を第1工程に40%、第2工程に60%の割合で配賦する。

c. 月初仕掛品原価

第1工程 ¥1,502,000 (素材費 ¥1,050,000 加工費 ¥452,000)  
 第2工程 ¥3,498,000 (前工程費 ¥2,568,000 加工費 ¥930,000)

d. 当月中に第1工程半製品1,800個を次工程へ引き渡し、200個を外部に販売した。なお、払出単価(原価)は ¥4,600である。

**3**

次の各問いに答えなさい。

(1) 京都産業株式会社の下記の資料により、製造原価報告書に記載する次の金額を求めなさい。

a. 当期材料費      b. 当期労務費      c. 当期製品製造原価

資 料

- ① 素材 期首棚卸高 ¥277,000 当期仕入高 ¥1,962,000 期末棚卸高 ¥283,000
- ② 工場消耗品 期首棚卸高 ¥58,000 当期仕入高 ¥342,000 期末棚卸高 ¥60,000
- ③ 消耗工具器具備品 当期消費高 ¥192,000
- ④ 賃金 前期末払高 ¥251,000 当期支払高 ¥1,723,000 当期末払高 ¥247,000
- ⑤ 給料 当期消費高 ¥953,000
- ⑥ 健康保険料 当期消費高 ¥136,000
- ⑦ 水道料 基本料金 ¥18,000  
 当期使用料 ¥ (当期使用量 2,100m<sup>3</sup> 単価/m<sup>3</sup>あたり ¥130)  
 水道料の計算方法は、基本料金に当期使用料を加算して求める。
- ⑧ 減価償却費 当期消費高 ¥175,000
- ⑨ 仕掛品 期首棚卸高 ¥594,000 期末棚卸高 ¥608,000

- (2) 大阪製作所は、等級別総合原価計算を採用し、1級製品と2級製品を製造している。次の資料によって、2級製品の製品単価を求めなさい。ただし、等価係数は、各製品の1個あたりの重量を基準としている。

資 料

i	当月完成品総合原価	¥9,280,000			
ii	製品/個あたりの重量	1級製品	150 g	2級製品	120 g
iii	完成品数量	1級製品	3,000個	2級製品	2,050個

- (3) 兵庫産業株式会社は、直接原価計算をおこない利益計画をたてている。当月における下記の資料から、次の金額または数量を求めなさい。なお、目標営業利益は当月と比べて25%増加させた金額とする。

- a. 損益分岐点の売上高                      b. 目標営業利益を達成するための販売数量  
c. 変動製造費が製品/個あたり ¥50 増加した場合の損益分岐点の売上高

資 料

- ① 販売数量 3,200個  
② 販売単価 ¥5,000  
③ 変動製造費（製品/個あたり） ¥2,350  
④ 変動販売費（製品/個あたり） ¥ 200  
⑤ 固定製造間接費 ¥3,024,000  
⑥ 固定販売費及び一般管理費 ¥504,000

- (4) 標準原価計算を採用している奈良製作所の当月における下記の資料から、次の金額を求めなさい。

- a. 月末仕掛品の標準原価                      b. 作業時間差異                      c. 操業度差異  
ただし、i 直接材料は製造着手のときにすべて投入されるものとする。  
ii 操業度差異は基準操業度と実際操業度を比較して把握している。  
iii 解答欄の（ ）のなかに不利差異の場合は（不利）、有利差異の場合は（有利）と記入すること。

資 料

① 標準原価カード

A製品	標準原価カード		
	標準消費数量	標準単価	金額
直接材料費	10kg	¥ 300	¥3,000
	標準直接作業時間	標準賃率	
直接労務費	2時間	¥ 900	¥1,800
	標準直接作業時間	標準配賦率	
製造間接費	2時間	¥ 700	¥1,400
	製品/個あたりの標準原価		¥6,200

② 生産データ

月初仕掛品	500個	(加工進捗度40%)
当月投入	1,800個	
合計	2,300個	
月末仕掛品	200個	(加工進捗度50%)
完成品	2,100個	

③ 実際直接労務費

実際直接作業時間	3,950時間
実際賃率	¥890

④ 製造間接費実際発生額 ¥2,813,000

⑤ 製造間接費予算（公式法変動予算）

変動費率	¥300
固定費予算額	¥1,640,000
基準操業度(直接作業時間)	4,100時間

- (5) 次の文の  にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

原価計算基準によると、実際原価の計算手続きにおいて、製造原価は、原則として、その実際発生額を、まず  ア に計算し、次に原価部門別に計算し、最後に  イ に集計する。

1. 等級別    2. 製品別    3. 機能別    4. 費目別

4 個別原価計算を採用している和歌山製作所の下記の取引によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) /月3/日⑨の取引の仕訳を示しなさい。
- (2) 素材勘定・製造間接費勘定・第1製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を作成しなさい。
- (4) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- (5) /月末の賃金未払高を求めなさい。  
ただし、i 前月繰越高は、次のとおりである。

素 材	200個	@ ¥3,200	¥	640,000
工場消耗品	240"	" "	¥	36,000
仕 掛 品（製造指図書#1）			¥	3,160,000（原価計算表に記入済み）
賃 金（未払高）			¥	1,538,000

ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。  
iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,500 の予定賃率を用いている。  
iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。  
予定配賦率 第1製造部門 ¥850 第2製造部門 ¥600

取 引

- /月 8日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。
- |       |      |          |   |           |
|-------|------|----------|---|-----------|
| 素 材   | 750個 | @ ¥3,300 | ¥ | 2,475,000 |
| 工場消耗品 | 900" | " "      | ¥ | 135,000   |
- 11日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材700個を消費して製造を開始した。  
25日 本月分の賃金 ¥3,946,000について、所得税額 ¥317,000および健康保険料 ¥283,000を控除した正味支払額を小切手を振り出して支払った。  
27日 A製品（製造指図書#1）60個が完成した。なお、A製品の賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を次の作業時間によって計算し、原価計算表に記入した。ただし、賃金予定消費高と製造部門費予定配賦高を計上する仕訳は、月末におこなっている。  
製造指図書#1 1,250時間（第1製造部門 380時間 第2製造部門 870時間）  
31日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は160個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）  
② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

		内訳		
		合計	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	1,250時間	380時間	870時間
	製造指図書#2	1,010時間	900時間	110時間
間接作業時間		340時間		

- ③ 上記②の直接作業時間によって、製造部門費を予定配賦した。
- ④ 健康保険料の事業主負担分 ¥283,000を計上した。
- ⑤ 当月の製造経費消費高を計上した。  
電力料 ¥379,000 保険料 ¥99,000 減価償却費 ¥260,000
- ⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。  
第1製造部門 ¥873,000 第2製造部門 ¥448,000  
動力部門 ¥252,000 修繕部門 ¥105,000
- ⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって、各製造部門に配賦した。

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	40kW×600時間	20kW×800時間	———	10kW×200時間
修繕部門費	修 繕 回 数	4回	2回	/回	———

- ⑧ 当月の賃金実際消費高 ¥3,913,000を計上した。
- ⑨ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。
- ⑩ 第1製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。
- ⑪ 第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

第93回 簿記実務検定 1級 原価計算 [解答用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		

<b>1</b> 得点		<b>2</b> 得点		<b>3</b> 得点		<b>4</b> 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

試 験 場 校	受 験 番 号

2

(1) 工程別総合原価計算表  
令和〇年/月分

摘 要	第 1 工 程	第 2 工 程
工程個別費 素材費		—
前工程費	—	
労務費		4,320,000
経 費		718,000
部門共通費配賦額	551,000	890,000
補助部門費配賦額		
当 月 製 造 費 用		
月初仕掛品原価	1,502,000	3,498,000
計		
月末仕掛品原価		3,130,000
工程完成品原価		
工程完成品数量	2,000個	1,900個
工 程 単 価	¥	¥

(2) ¥

(3) 第 1 工 程 半 製 品

前 月 繰 越	1,680,000	第 2 工 程 製 造	8,280,000
( ) ( )		売 上 原 価 ( )	
		次 月 繰 越 ( )	
( )		( )	

2  
得点

**3**

(1)

a	$\frac{2}{3}$
b	$\frac{2}{3}$
c	$\frac{2}{3}$

(2)

$\frac{2}{3}$
---------------

(3)

a	$\frac{2}{3}$	b	個
c	$\frac{2}{3}$		

(4)

a	$\frac{2}{3}$	
b	$\frac{2}{3}$	( )
c	$\frac{2}{3}$	( )

(5)

ア	イ

<b>3</b> 得点	
----------------	--



4

(1)

	借 方	貸 方
/月3/日⑨		

(2)

素 材	
1/1 前 月 繰 越	640,000
製 造 間 接 費	
第 / 製 造 部 門 費	

(3) 製造指図書# / 原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配 賦 率	金 額	摘 要	金 額
1,938,000	780,000	第1	520	850	442,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	個
						製品単価	¥

(4) 部 門 費 振 替 表

相互配賦法 令和〇年/月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,678,000	873,000	448,000	252,000	105,000
動力部門費	kW数×運転時間数				—	
修繕部門費	修繕回数					—
第1次配賦額						
動力部門費	kW数×運転時間数					
修繕部門費	修繕回数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(5) ¥

4	
得点	